



## コラム ～ 親の気持ちと子どもの気持ち ～

この時期になると、4月から進学、就職、そして、親元から離れて新生活を送る子どもを心配される親御さんがたくさんいらっしゃいますよね。

という私も、数年前、下の娘が大学進学が決まり家から出て一人暮らしをする事が決まった時は心配をしたものです。親は子どもに何かあったらとは常に心配をしているものだと思います。

特に私たちが普段支援をしている障がいをお持ちのお子さんの親は、必要以上に心配をされているのではないのでしょうか。

私も多くのそんな親御さんと向き合ってきたなかで、そうは言ってもと思うことがあります。会議をしている中でもよく出てくるワードの一つなのですが「子どもに何かあったら心配なので…」という言葉です。え？と思われる方もいらっしゃると思いますが、実はこの言葉はマジックワードの一つだと思っています。確かに健常と呼ばれている他のお子さんに比べると心配な事はたくさんありますし、不安も常にあります。しかし、「心配だから」と思うのは時に子どもの成長を妨げる要因の一つになることがあります。今、私たちが直面している大きな課題の一つとして「18歳の壁」と呼ばれているものがあります。これは、障がい福祉サービスの大きな課題の一つなのですが、18歳（学齢期）が終わり、その後、障がいをお持ちのお子さんの一部の方については、成人の福祉サービスに移行していきます。その中には、職業訓練をするものから、高齢者のデイサービスのような仕事をするのは少し難しい方が過ごす場所まで様々です。ただ、多くの成人の福祉サービスに通われている方が自宅に帰る時間（終了時間）は、15時～16時の間がほとんどです。終わった方たちは送迎などを使い自宅に帰っていくわけですが、それまでは、地域の児童センターや放課後等デイサービスなどの支援が18時ごろまでであるため、家族も仕事が終わったら迎えに行けたのですが、成人のサービスはそこまでの時間の利用ができないため、15時～18時ごろまでの過ごし方に大きな課題があります。どうすればいいかは、またみなさんと一緒に考えていかなければならない仕組みかもしれませんが、学生のうちに自宅で留守番であったり、一人で過ごすための工夫を身につけることができなかった時、家族のみなさんだけでなく、本人が一番困ってしまうという事態になります。その時間を、どう過ごすのか。きっとその取組が、将来のお子さんの自立に繋がるかもしれませんし、ただただ家族の迎えを待つのではなく、自宅でゆっくり自分の好きなことをしながら過ごす事が明日へのモチベーションになるかもしれません。

ただ、現実にご家族も仕事や日々の生活に追われ、そこまで考える余裕がない家庭が最近が増えてきています。でも、一步、そんな取組みをまだたくさん失敗できる時に取り組んでいただけたらと思うんです。これは、障がいがあるなしに関わらず、子どもの時に自分らしい生活を身に着けてほしいなと思います。親として心配でしょうけど、必要な能力なんです。

裏面も読んでいただき、何かお子さんに不安や心配事などがありましたら、村の保健師や教育委員会、たんときッズあおきまで、ご相談いただければ対応いたします。

## たんときッズあおき（NPO法人たん。）

### TEL 0268-75-6789

青木村田沢3075-1

■開所時間 9:00-17:00

■定休日 土日祝日

NPO法人たん



合理的配慮が適用される場面であっても、**関わる全員の「思いやり」**が大切なことに変わりはありません。

しかし、この配慮は勘違いされやすく、特別扱いと思われることも。また、自分勝手な解釈で自分自身が工夫などをせずにすべてやってもらえる、許してもらえる